

JENESYS 日本・ブルネイ環境保全交流（招へいプログラム）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

ブルネイの環境保全を専攻する学生・研究者、関係分野の若手起業家・若手行政官が、11月18日から11月24日にかけて訪日しました。

近年、ブルネイでは、廃棄物処理やリサイクル分野を中心に、環境保全への取り組みが活発化しており、環境系のNGO・NPOを立ち上げる若手起業家が増えています。こうした背景を踏まえ、本プログラムでは、関係機関による講義や施設の視察を通じて、日本の先進的な環境技術を紹介し、持続可能な社会の実現に向けた意識啓発を促進することを主な目的としました。一行は東京都、静岡県を訪問し、両国間の関係を強化するとともに、学びの成果をSNSを通じて発信しました。

【参加者】

ブルネイの環境保全を専攻する学生・研究者、関係分野の若手起業家・若手行政官 合計8名

【訪問地】東京都8名、静岡県8名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

11月11日（火曜日） 【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「ホームビジット体験」「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「ホストタウンの取り組み」「日本語」

■ 招へいプログラム：

11月18日（火曜日） 成田国際空港より入国

【来日時オリエンテーション】

【テーマ関連講義】「海洋プラスチックごみについて」

講師：環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室
環境専門調査員 窪田 隆明 氏

11月19日（水曜日） 【テーマ関連視察・意見交換】町田市バイオエネルギーセンター

【視察】浅草

11月20日（木曜日） 東京都から静岡県へ移動

【文化体験】茶道体験

【テーマ関連視察】沼上資源循環学習プラザ しずもーる沼上

11月21日（金曜日） 【テーマ関連視察・講義】

「セブン・イレブンのプラスチック対策について」

講師：

株式会社セブン・イレブン・ジャパン オペレーション本部 オペレーションサポート部 地域共生静岡・東東海ゾーン担当兼、地域共生東海ゾーン担当

岩田 崇 氏

静岡市役所 環境局 ごみ減量推進課 ごみ減量・リサイクル推進係 係長

井関 恵太 氏

【ホストファミリー対面式・ホームステイ】御殿場市

11 月 22 日（土曜日） 【ホームステイ】文化体験含む

11 月 23 日（日曜日） 【ホームステイ・ホストファミリー歓送会】

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

11 月 24 日（月曜日） 静岡県から東京都へ移動

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム



11 月 18 日【テーマ関連講義】
「海洋プラスチックごみについて」



11 月 19 日【テーマ関連視察】
町田市バイオエネルギーセンター



11 月 19 日【視察】浅草



11 月 20 日【文化体験】茶道

	
11月20日【テーマ関連講義・視察】 沼上資源循環学習プラザ しずもーる沼上	11月21日【テーマ関連講義・視察】 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
	
11月22日【ホームステイ】	11月23日【ホストファミリー歓送会】
	
11月24日【報告会】	11月24日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

特に印象に残ったのは、日本のリサイクルの取り組みについてです。学生から企業まで、環境保護に向けて協力して真剣に取り組んでいることに驚きました。

持続可能な社会に向けての強い関わり、特に資源を再利用、再活用する「循環型システム」は、廃棄物の管理や若者への啓発について新しい視点を与えてくれました。

また、ホームステイは忘れられない思い出になり、日本文化をホストファミリーと共に楽しみました。ゲームや伝統的な水引結びをしたり、お蕎麦を作ったり、初めて温泉にも連れていってもらいました。家族に歓迎され、つながりを感じながら日本の日常生活を満喫することができました。

全体を通して日本文化、価値観、コミュニティでの精神が理解できました。心温まる経験は、学びだけではなく、生涯の宝となりました。

◆ 社会人

教員として、教育が人生で重要な役割を果たしている私にとって最も印象的だったのは、沼上資源循環学習プラザ「しずもーる沼上」でした。紹介されていた取り組みに触発され、いくつかの方法をブルネイでも実践したいと思います。訪問先のすべてが素晴らしく、多くの知識やアドバイス、環境保全を継続して行う刺激を得ることができました。

◆ 社会人

ホームステイでは、お父さん、お母さんから温かい心で歓迎され、家族のようにコインランドリーやコンビニに連れて行ってもらいました。畑では自分たちで野菜を収穫し、ワサビ畑に行って野菜を味わい、毎日収穫した果物や野菜をおいしく料理してもらいました。日本のテレビで私たちのプログラムが放送され、親切で礼儀正しく温かい心の日本の人々と触れ合い、理解することができ、とても嬉しい経験でした。今後、この経験を発信していきたいです。このプログラムを通じて日本食の体験や環境問題に関する知識を多く学ぶことができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

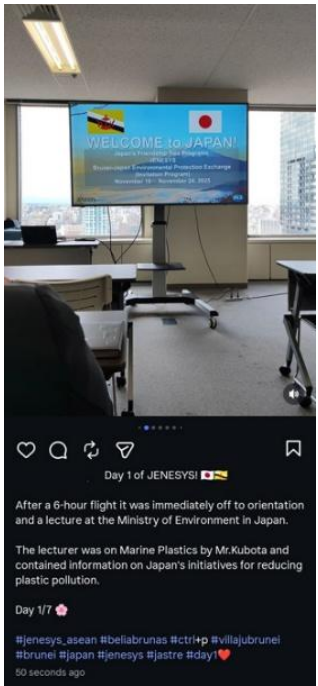
◆ 講師

予想を超えて参加者の皆様が熱心に傾聴されているのを拝見し、少々驚きをもって感心しました。今回の講義の感想や気持ちを関係者の方々にお伝えいただければと思います。

◆ ホストファミリー

交流しようとする気持ちがいっぱい、和やかな雰囲気、2日間になりました。足柄温泉と一緒に、我が家の3人子ども達と遊んでくれとても仲良くなりました。神社の落ち葉を掛け合ってたくさん笑いました。地域のお寺に行って説明と一緒に聞き、私も学びになりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 Day 1 of JENESYS After a 6-hour flight it was immediately off to orientation and a lecture at the Ministry of Environment in Japan. The lecturer was on Marine Plastics by Mr. Kubota and contained information on Japan's initiatives for reducing plastic pollution. Day 1/7 #jenesys_asean #bellabrunas #ctrip #villaljubrunel #brunei #japan #jenesys #jastre #day1 50 seconds ago	 View Insights Boost Post [JENESYS2025: Machida City Bioenergy Center] Day 2 in Tokyo, Japan. We were taken for a tour in Machida City Recycling Center. In Machida City, they are the first recycling centre through biogas method & they are the waste center for 3 city of Tokyo. To summarize, this recycling center produce alternative energy called BIOENERGY which process waste burnable products through fermentation & the steam release is use as kinetic energy to electrical energy. The benefits of this process is it does not release toxic gas & environmentally safe. Arigato gozaimasu~ Collect your plastic bottles & send to the special bins (recycle bins) at Waste Collection Point. Did you know @biofieldbn does waste food to compost!
--	--

2025 年 11 月 19 日 (Instagram) 大学生 6 時間のフライトから到着後すぐオリエンテーション、環境省の講義でした。海洋プラスチック、プラスチック廃棄物の取り組みなど窪田氏から学びました。	2025 年 11 月 19 日 (Instagram) 大学院生 東京 2 日目。町田市のリサイクルセンターは東京で最初のバイオエネルギー再生廃棄物センターです。燃えるごみを発酵させ蒸気を電気のエネルギーに変えるバイオエネルギーを生み出します。この過程では毒性のあるガスは放出せず環境に安全です。 ごみの回収ではプラスチックボトルは回収されリサイクル用の箇所に送られます。また生ごみがコンポストになるのをご存じでしたか？
	
2025 年 11 月 21 日 (Instagram) 社会人 セブン-イレブンではプラスチック廃棄物における協働責任と取り組みを学びました。プラスチックのボトルを回収する機械で、リサイクルに参加した人にはチャージカードのポイントがたまります。セブン-イレブンの製品においてもプラスチックボトルをリサイクルしボトルを再生しています。	2025 年 11 月 22 日 (Instagram) 大学院生 日本のホストファミリーです。先ほどゆずと野菜を収穫しました。なんと美しい景色でしょう。清らかで平和です。日本人の環境に関する価値観、想いの深さを感じました。私たちブルネイ人も、このようなレベルの環境への配慮を実現できるのでしょうか。

	2025 年 11 月 22 日（テレビ静岡ウェブサイト） 「ブルネイ視察団 日本のリサイクルを学ぶ ごみ問題に対応 循環型の社会を目指して」
---	--

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、静岡県 全 2 グループ発表

グループ A	
	
【成果の発表】 - 環境省では、政策だけではプラスチック汚染は解決できず、人々の行いや企業との協力、地域活動が等しく重要であることを学びました。環境のための習慣は子どもの頃から教えられ、地域社会に根付いていました。学校・家庭・地域社会が協力して清潔を保ち、ごみの分別を奨励していました。 - 町田市エネルギーセンターでは、ごみからエネルギーに変換する最先端システムにおいても家庭や地域のごみの分別が重要でそれにより安全性、効率性、環境保全が問われることを理解しました。 - しずもーる沼上では、循環型の取り組みとして、生ごみと竹粉を混ぜて肥料を作り、その肥料で野菜を育てています。こうした活動は、ごみ削減につながる循環の実践です。教育は、廃棄物や環境問題への理解を深めるうえで重要な役割を果たし、早い段階で意識を高めることで、地域社会に力を与えます。さらに、生ごみ削減や資源の有効活用、生物多様性の保護に貢献し、環境に配慮した企業の支援にもつながっています。 - セブン-イレブンでは、プラスチック回収システムで材料を持続可能に使用するリサイクルパッケージを実施、全国的なコンビニのネットワークの持続可能な運用で廃棄物を削減に貢献していました。 これらの取り組みは各業種を超えて行われ、分別ごとの様々なごみ箱の設置、取り組みを国民に意識させる SDGs のロゴ、プラスチックをつぶす機械なども持続可能な社会のための総合的アプローチに驚きました。	

【アクション・プラン】

「教育、参加型、循環の実践を通じてごみの削減のための地域社会型アプローチ」

アクション・プランは、

- ①廃棄物の分別における意識向上
- ②マイクロコンポスト教育
- ③小規模でも再現性ある行動を通じた地域社会の行動の変容

の三つを目的とし、学校、若者（エコクラブ）、コミュニティセンターを対象に、リサイクル教育のツールを作成し SNS で発信、2 か月目にはごみの分別や循環を学ぶ活動や認知を拡げ、生ごみからコンポストを作り、野菜や果物を育て、ごみの分別や循環のためのアート作品を作成する活動を行います。3 か月目にはごみの分別の状態を把握して報告書を作成し、できたコンポストは 6 月にある世界環境デーに畑で使用する予定です。アート作品は今後のリサイクルキャンペーンで活用する計画です。

グループ B



【成果の発表】

来日前から、日本はリサイクル率が高く、街がきれいで、ほとんどごみがない場所だと想像していました。また、市民は細かいごみの分別方法を守り、礼儀正しさとおもてなしの心、高度な最先端技術を持ち合わせた豊かな文化に深く根差す国であると思っていました。

さらに来日後には、政府が明確なシステム、強固な政策を通じてリサイクルを積極的に推進し、子どもから高齢者まで、あらゆる年齢層の人々がこの取り組みを真剣に受け止め、規則を守っていることがわかりました。また、日本は廃棄物をリサイクルし、再利用するための新しい方法を創造的に開発していることにも驚きました。

観光名所だけでなく近くの公共スペースに至るまでどの場所もきれいでした。

そして何よりも、人々が日常生活の中で継続している自然への深い敬意には感銘を受けました。

プログラムでは、環境保護のための日本のシステムの総合的な働きをより深く理解することができました。そして私たちが最も強く感じたことは、適切な廃棄物管理は、単なる政府の政策ではなく、日本の文化や人々の日常生活に深く根付いているということでした。

【アクション・プラン】

アクション・プランはリサイクルの意識を高め出前授業など楽しく交流できる活動を通して、企業への政府の支援を奨励しブルネイのリサイクル文化を生み出すことです。

学校や大学へリサイクルの取り組みを紹介し、ブルネイ市民のリサイクルに関する理解と意識を向上させ、Wasanan Brunei 2035（ブルネイ・ダルサラーム国が 2035 年までに目指す長期国家ビジョン：目標①教育・技術に優れた国民、②質の高い生活、③ダイナミックで持続可能な経済）に貢献するための長期的な国の目標を支援する目的で行います。

12 月には高校や大学の生徒やリサイクルセンターを対象にリサイクルに関する行動について調査や状況を話し合い、次のフェーズでブルネイのすべての年齢層に向けてリサイクルの理解を深め、ビーチ清掃や日本で学んだようなリサイクルに関する体験型ワークショップや講義などを開催、さらには 1 月から 2 月の初めには対象を拡げて活動しアンケート、データを収集・分析し活動報告をまとめ、日本とブルネイのリサイクルの現状を SNS で共有します。

2026 年の 5 月までにはペットボトルのリサイクルを増やすために市民を対象に校内でペットボトル回収を促し、それらを裁断し熱を加えて 3D フィラメント用に使用できるようリサイクルします。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）